

全国農業教育新聞

2号

発行所
全国高等学校農場協会

東京都渋谷区
円山町2-20

民の希いは 繁栄の 歴史新たに おこるとき
進む技術の研鑽に 喜び集う 農場協会

第592号 令和元年10月31日

(年4回発行)

第68回全国大会開催

全国高等学校農場協会及び、公益財団法人全国学校農場協会共催による全国大会並びに研究協議会が、6月6日(木)・7日(金)の二日間、東京都千代田区永田町の星陵会館において開催された。第一日目の総会では新会長が選出され、2日間を通しての研究協議会では、活発な意見交換・協議が行われ、極めて盛会で有意義な大会であった。

会長あいさつ

全国高等学校農場協会

会長 齋藤 義弘



本日は、令和元年度第68回全国大会並びに研究協議会の開催に当たりまして、衆議院議員 石破茂様、衆議院議員 田所嘉穂様、衆議院議員 宮川典子様、衆議院議員 西岡秀子様をはじめ、多くの国会議員の皆様、関係省庁その他大勢の皆様のご臨席を賜りまして誠に有り難うございます。本協会は、ご承知のように昭和27年2月に結成され、本協会の目的である農業教

育の振興を図るために、全国大会、研究協議会などの開催、農業教育に関する調査研究、農業教育の振興に関する活動や事業を行ってまいりました。

ここ数年、農業高校への関心と期待が高まっています。今年の5月25日付の日本農業新聞に、「農業高校、地方創生への主役に」という表題で、片山さつき地方創生担当大臣の「地方創生の第2期に取り組むべき施策について、農業高校が地方創生のプレーヤーになることを見据え、施策を検討していくとの基本方針を表明した」との記事が掲載されています。

また、4月1日からスタートしたNHKの連続テレビ小説『なつぞら』も農業高校への関心の高まりの一

つだと考えます。関係の皆様方からの大きな期待に対して、農場協会が確実に応え、農業を学ぶ生徒が農業高校に入ってよかった、農業を学んでよかったと心から言える農業高校になること。そして、農場協会の目的である農業教育の振興をより一層進めていくことができればと考えております。

結びに、平成から令和の時代を迎えました。令和には、美しく心を寄せ合う中で文化が育つ。また、梅の花のように、日本人が明日への希望を咲かせる国であるようにという意味があるとのことです。

昨年度は、全国高等学校野球選手権記念大会で、秋田県立金足農業高等学校が準優勝、この春の選抜高等学校野球大会には、茨城県立石岡第一高等学校が、出場しました。農業を学ぶ生徒に夢と希望、感動を与えてくれたように、農場協会が生徒に明日への希望を持たせることができればと思います。そして、農業高校が地方創生への主役になる

ように、農業の文化を育てていくことができればと思います。今後とも皆さんの一層のご協力をよろしくお願い致します。

*感謝状受賞者の紹介

開会式において農業教育の振興と本協会の活動に多大なる功績を残された先生方に感謝状が贈呈されました。

- 津江一郎先生(東京都)
 - 宮地亮輔先生(東京都)
 - 石橋久仁彦先生(愛知県)
 - 藤田光司先生(島根県)
 - 廣田耕治先生(岡山県)
 - 三山泰治先生(広島県)
- 本当にありがとうございます。

新会長あいさつ

東京都立農芸高等学校

小堀 紀明



会員の皆様こんにちは、この度、全国高等学校農場協会(全高農)総会において齋藤義弘会長の後任とし

て会長を仰せつかりました
東京都立農芸高校の小堀で
す。よろしくお願い致しま
す。会員の皆様には日頃か
ら農場協会の活動にご理解
ご協力をいただきありがと
うございます。全国約七千
人の会員が組織する全高農
会長に推挙されたことは身
に余る光栄です。

さらに、その活動は、農
場協会の活動の趣旨にご賛
同いただいた会員の皆様か
らお預かりした会費で運営
させていただいていること
を考えますと身の引き締め
る思いです。

さて、全高農は、昭和で
は、施設設備や農業科教員
の確保、平成は老朽化した
施設の改善等、全国の農業
高校で同レベルの教育を生
徒が受けられるために、先
生方の支援を含め活動を行
ってまいりました。平成の
後半から、地方自治が叫ば
れる中で、産業教育も都道
府県に権限の多くが委譲さ
れ、教員の待遇にも差が出
ています。令和の時代にな
り、全高農本部としては、
先生方の待遇については、

都道府県による差を無くす
方針は変わりませんが、施
設や設備、予算に関しては、
本部と各支部、都道府県が
連携してそれぞれの実情に
合った農業教育の充実に取
組んでいくことが大切だと
考えています。本部では、
全国を集約して分かりやす
い例を挙げ、予算措置の要
望すること、地方交付税
の根拠とする。一方各県で
は、それぞれの実情に合わ
せてSocietyの産業社会
で活躍できる生徒や地域活
性化のために必要なことを
教育委員会に要望していく
ことで、地方創生やスマー
ト農業が求められる状況が
ある中では、大切だと考え
ています。全高農会長とし
て全力で取り組む所存です。
会員の皆様のご指導ご鞭撻
をよろしくお願ひします。

・役員紹介

- 会長 小堀 紀明 (東京)
- 副会長 並川 直人 (東京)
- 副会長 荏塚 光信 (埼玉)
- 副会長 小堀 卓二 (東京)
- 副会長 藤野 康之 (栃木)
- 副会長 羽生 昭男 (茨城)
- 北海道支部長

山城 誠 (北海道)

東北支部長

松崎 勝則 (福島)

関東支部長

田熊 重利 (埼玉)

北信越支部長

田原 康治 (福井)

近東支部長

奥田 毅 (三重)

中国支部長

三山 泰治 (広島)

四国支部長

松岡 秀和 (高知)

九州支部長

坂田 実幸 (福岡)

「農林水産高校を応援
する会」の活動報告

「農林水産高校を応援す
る会」会長の衆議院議員
石破茂先生をはじめ農林水
産高校を応援する会の先生
方には、農林水産高校に御
理解と御支援を賜り、厚く
お礼申し上げます。

本協会は、昨年12月の、
「農林水産高校を応援する
会」で「時代の進展に対応
した農業教育施設・設備の
ための予算措置」を重点要
望としてお願ひしました。
農業高校における農業教
育施設・設備は老朽化が顕

著であり、現在の産業技術
に対応した先進的な農業教
育の推進を図ることが困難
な状況にあるからです。

その後、農水省関係者に
よる農業高校3校の訪問視
察をしていただきました。

この視察により、現状を
確認していただいた事は、
農場協会にとって大きな前
進であると考えています。

今後はこの要望を早期に
実現するために「農業教育
施設・設備のための予算措
置」を重点事項として要望
して参ります。

「食」「環境」「人」の分野のプロフェッショナルを育成しま す

■環境園芸学部
環境園芸学科
■人間発達学部
子ども教育学科

■健康栄養学部
管理栄養学科
■食品開発科学科

南九州大学
MINAMI KYUSHU UNIVERSITY

0120-3739-20
http://www.nankyudai.a.c.jp

生きるを学ぶ。学びが生きる。

酪農学園大学

農食環境学群
循環農学類
食と健康学類
環境共生学類
獣医学群
獣医学類
獣医保健看護学類

三研の豚銜機

農業
畜産
科学
食品加工機器
畜産機器

Sanken

〒143-0014 東京都大田区大森中3-36-8
http://www.hi-sanken.com / sanken@hi-sanken.com
株式会社三研
FAX.03-6450-0326 TEL.03-6450-0327